

南開大学 Semester 留学便り 12月 (教員版)

12月に入ると雪が降りました。湿度が違うせいかな、日本の雪とは違ってサラサラです。例年より寒くなるのが遅かったのですが、12月には最低気温が零下になる日が多くなりました。大気汚染は相変わらずですが、晴れた日が続くと青空のありがたさを感じます。

今月の様子をお知らせします。学生版の便りと併せてご覧下さい。

1日(日) HSK受験

17・18・19日(火・水・木) 期末試験

筆記と口語の試験が行われます。二日に涉った口語試験を見学しました。パワーポイントを使いながら思い思いのテーマで発表しますが、発表後には質疑応答があり、各自三回は質問することになっています。質問も含めて評価対象となります。引率者としては皆の中国語力を知るよい機会でした。

テーマが様々なので、学生の関心のありかも窺えます。ダイエットや睡眠に関するテーマが続いた時、担当の先生が「養生講座みたい」と感想を漏らしていたのが印象に残りました。

20日(金) 留学生表彰式・修了式

取材日誌参照 <http://pr.kokugakuin.ac.jp/class/2013/12/20/225637/>

修了式では漢語院の他の留学生クラスの発表も見られました。ノリのいいクラス、落ち着いたクラス等、それぞれ個性があって、留学生同志の大学生活が垣間見えました。普段は國學院クラスで勉強しているので、他のクラスの様子がわかるいい機会です。

夜は、漢語院の招待で会食です。学生から担当の先生に記念のアルバムが渡され、先生方は感激していました。先生方が言うには、こういった習慣は日本特有のようです。留学生は各国から来ていますが、国によって別れの情景が違うのも興味深いことです。

22日(日) 北京へ移動

この季節は、北京・天津間的高速道路は濃霧により閉鎖されることがあります。それを避け、北京に前泊することが恒例となっています。帰国前日に、四か月暮らした天津とお別れです。

23日(月) 15:55 北京発 NH1256 便で帰国 羽田空港で解散

羽田空港では、四か月間ともに過ごした仲間との、しばしの別れを惜しむ様子が見られました。

【留学を振り返って】

引率をして三年目になりますが、この Semester 留学というのは特異な体験だとつくづく思います。日本にいる時は違う場所で暮らしている同じ大学の学生同士で同じ宿舎に住

み、連日同じクラスで授業を受けます。留学ですから外国語を学び、異文化を学ぶことが目的ですが、それ以外にも日本の大学にいたままでは通常できない体験をします。毎年感じられるのが、四か月間で学生同士の仲が深まっていく様子です。日本にいる時は話したこともなかった学生同士が仲良くなっていきます。仲良くなるだけでなく、人づき合いの中で様々なことを経験していくのですが、こういったことも四か月間に得たものに含まれるでしょう。

四か月というのは外国語を学ぶには短く、この留学も学修過程の一部に過ぎません。これからも中国語の学修は続きます。現地では授業での学修と生活等での実践が結びついているため、「わかる」「使える」という実感が得られやすくなります。それが勉強意欲向上に繋がるのですが、その意欲を今後どう維持するかが重要です。長期留学をすることが望ましいのですが、留学が無理でも勉強を続けるよう、自覚的に取り組んで欲しいと思います。

(引率 佐川 記)